令和４年度　大師高等学校　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （　月　日実施）	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	新カリキュラム実施にあたり、外国につながりのある生徒の学習支援も含め、生徒の包括的ニーズに応じ、生徒を取り巻く社会からの要求が反映された教育課程を開発し、展開する。	①新・旧教育課程が混在する中で、本校の特色や生徒のニーズに見合った履修指導を行うため、具体的な方針、指導方法を計画する。 ②教育活動のあらゆる面で、基礎基本の定着を念頭に置き、生徒の学力や生活力を向上させるための工夫・改善を進めていく。	①本校の特色や生徒のニーズに沿った履修指導を行う。 担任が円滑に履修指導できる資料を作成する。 ②異校種との授業見学後の協議を含めた授業見学会を実施する。 コロナ禍の中でも対応できるオンライン等の授業を実施する。	①生徒のニーズに沿った履修指導を行えたか。 担任が円滑に履修指導できたか。 ②授業見学会が実施できたか。 オンライン授業が実施できたか。					
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	生徒が生きていくために抱える様々な課題に、柔軟かつ効率的に対応する指導・支援の効果的手法を導入し、組織的な体制拡充を図る。	①昨今の社会情勢の中でも、充実した有意義な学校生活を生徒自身が実感できるよう、様々な手段や方策に粘り強く取組んでいく。 ②生徒自身によるタイムマネジメント能力の育成を中心に、社会の中で自立していくための判断力や自律心の涵養に努めていく。	①新入生歓迎会や体育祭、繋心祭（文化発表会）、後期生徒総会などを通じて、部活動の状況を発信し、新入生と在校生に一年間を通じてアプローチをする。 ②面談・ホームルーム・遅刻指導等を通じて自分で考え、判断し、行動する力の涵養を図る。	①部活動の加入率が30%まで伸びたか、また活動実績が向上したか。 ②情報共有を通じて生徒個々への的確な支援を実践し、遅刻者数の減少などの成果を挙げることができたか。					
3	進路指導・支援	様々な生活・生育背景を持つ生徒に対し、自分が「したいこと」「できること」「しなければならないこと」を自覚させ、それに取り組むために必要となる知識と経験を蓄えさせる。	①生徒一人ひとりの実情に鑑み、社会の中で自らの役割を自覚し、実現していくために必要となる経験をしっかりと積ませていく。 ②自分が「したいこと」「できること」を試行錯誤する中で、生徒自身が見通しをもち資質を高められるよう粘り強く取組んでいく。	①ライフステージとしてのキャリアデザインに基づく進路希望を確認させ、希望の実現に向けた取組を指導・支援する。 ②高校入学までの取組を踏まえて、キャリア・パスポートづくりを指導し、生涯にわたるキャリアデザインの設計を支援する。	①高校卒業時点での進路未決定者の比率が 0%に近づいたか。 ②3年次当初の時点で、卒業後のキャリアデザインが設計でき、進路希望未定という生徒の比率が 0%に近づいたか。					

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（　月　日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（　月　日実施）	成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	生徒を取巻く大人たちが果たさなければならない役割を相互に意識したうえで、多文化共生の視点も含め、機会に応じた効率的かつ効果的な諸活動を実施する。	①教育活動の様々な局面で学校外にある教育資源の活用を、昨今の社会情勢に鑑みながら、実現可能な取組を進めていく。 ②本校の教育活動全般について、地域をはじめ広く県民に理解してもらうため、ホームページ等での効果的な発信に努めていく。	①PTA や地域の参画を得るべく、コロナ禍における体制を構築する。 ②学校ホームページの更新回数を月平均4～5回を目標に、情報の発信に努める。また、掲載内容も写真などを中心に本校の様子がよくわかるものとする。	①学校行事等でPTA や地域社会との連携が図れたか。 ②更新回数の目標を達成することができたか。また、写真などメディアを中心に掲載できたか。					
5	学校管理 学校運営	本校がもつ「強み」と「弱み」を常に整理しながら、人的および物的資源を有効かつ効率的に利活用した、誰からも愛される学校づくりを進める。	①一人１台端末をはじめICT機器の利活用を効果的、効率的に進めていくため、学習環境整備等に組織的に取組んでいく。 ②安全で安心な学校生活をより一層確かなものとするため、昨今の諸情勢に見合った効率的かつ組織的な対応をさらに進めていく。	①各教室に設置してあるモニター等の wi-fi を含む ICT を利用した教育環境を整備し、効率的に利活用した学習を効果的に行うため、職員への啓発を促す研修会を定期的に行う。 ②不祥事防止会議等の定期的な諸会議において、課題を共有化し、年間を通して組織的に業務に取り組む。	①ICT を授業等に利活用するための定期的な職員研修会を開催することにより、多くの職員が授業に活用することができたか。 ②年間を通じて、諸課題について、職員全体で共有化し、組織的に対応することができたか。					